

戦略的研究プログラム 包括環境リスク研究プログラム

委員会からの主要意見

現状についての評価・質問等

- 第5期の包括環境リスク研究プログラムは、第4期に比べて内容がスリム化され、達成目標が明確になったと評価できる。
- 全懸念化学物質、さらにはそれらの環境動態をも扱うとのことだが、現段階で人の健康に関わる重要物質に絞り込むなど、特定化学物質を扱われる方がプログラムを現実的に進めるためには良いかもしれない。
- 全懸念化学物質の動態理解は計測が基本になり、それだけでも大変な作業になるが、暴露計測を行い、健康影響・生態影響を解明することは大変重要で、社会的にも大きな貢献ができるものと評価する。包括環境リスク研究プログラムとして全体を包括しており、研究体制としても評価できる。複合的な研究なのでPJごとの進行目標だけでなく、目的達成のためのプログラム全体の年度ごとの研究進行管理を意識することをご検討いただきたい。

今後への期待など

- 人間の健康と生態系劣化に影響があると推測される人間活動に起因する全懸念化学物質を対象を広げて包括的リスク指標の確立をめざすという目標は挑戦的であるが、第4期の研究成果を基礎に着実に推進されることを期待する。
- 全懸念化学物質による多重・複合曝露影響(将来的には、有機化合物と金属類との多重・複合影響についても)の解明はチャレンジングなテーマであるが、本プログラムにより大きく進展することを期待したい。
- 本プログラムにより、ヒトへのPM2.5の有害性評価や海洋におけるマイクロプラスチックの生態毒性評価等の解明が大きく進展することを期待したい。
- 定量的評価が容易ではない生体影響について把握するための包括健康リスク指標の開発は、容易ではないと思うが、他の研究者の研究にも目を向け、連携できるところは連携して進めるように、リーダーシップを発揮していただきたい。

主要意見に対する国環研の考え方

- ① 第4期までは健康および生態影響は評価系の確立や影響の検出に重点が置かれ、曝露計測や環境動態は計測ないし推定が容易な物質に限って実施してきました。これらの手法はそのまま活用しつつ、さらに健康・生態系影響では脆弱性と実環境レベルの低濃度に着目した評価を、曝露計測や環境動態では計測困難ないし予測困難な物質に取り組んで、懸念されるもののカバーできていない大部分の物質の評価をおこなうとともに、これらを統合して国際的な枠組みでリスク指標の考えを発展しようと考えています。また、研究成果の発信についても、HPや一般公開、講演会シンポジウムなどで積極的に行っていきます。
- ② 当PGは複合的な研究であり、PJごとだけでなく、目的達成のためにはプログラム全体での年度ごとの目標が大事とのご指摘はその通りであり、検討します。
- ③ すべての物質群に取り組むのは難しいので、それを目指して重要な物質群(たとえばプラスチック添加剤など)に絞り込んで実施することを想定しております。
- ④ PM2.5および海洋プラスチックの影響も未知・未解明ないし未規制の物質に相当しており、このプログラムの中でも成果を一部出していければと考えています。
- ⑤ 健康リスク指標開発では他の機関の研究者も含めた幅広い連携が重要ですので、是非とも進めたいと思います。